



自民党・無所属 大阪府議団だより

すぎもと たいへい

杉本太平議員は 大阪を前に進めてまいります。

プロフィール 昭和51年生まれ。現在2期目。自民党・無所属府議団幹事長。税理士、行政書士。信太山自衛隊協力会役員。和泉市立池上小、浪速中・高、大産大、札幌大院。元アメフト関西代表。元和泉青年会議所理事長。家族：妻と娘4人。

和泉市選出



住民投票の民意を尊重し 大阪市(政令市)を核に大阪関西の成長を!

大阪発 地方分権
改革ビジョン

大阪都構想は時代に逆行

いわゆる大阪都構想とは、権限と財源を兼ね備えた大阪市(政令市)を廃止し、財源と権限を弱めた基礎自治体(特別区)に分割する構想です。前回の協定書(都構想の設計図)では、効果額が年4000億円あるというのがウソであり、逆に初期費用が600億円以上もかかることが明らかとなりました。そんな中、公明党を薙し、「ラストチャンス」「負けたら終わり」と市民を煽り、32億円の費用をかけて行われた住民投票において、「反対」という絶対的な民意が示されたことは記憶に新しいところです。大阪市は、**高いポテンシャルを有する大阪・関西の発展をけん引する核**としてさらに発展していく必要があります。また、**人口減少、急激な少子高齢化、自治体間の格差拡大**の時代においては、役所を効率化し、スケールメリット・規模の経済を追求する必要があり、住民に最も身近な行政である**基礎自治体(市)を小さくすることは時代に逆行**することになります。

住民投票の民意を踏みにじり、何が何でも大阪市を廃止・分割し、権限と財源を奪おうとする姿は、まるで**中央集権体制で既得権を離したくない霞が関**のようです。「勝つまでジャンケン」のようなことをいつまでも続けるのではなく、未来に向かって新しい一歩を踏み出していくことを願うばかりです。

Check 広域連携・市町村合併の推進を

これから大阪の目指す方向性は、大阪市は政令市として大阪・関西の成長エンジンとしてさらに発展する。そして、その他の市町村については、人口減少社会でも質の高い住民サービスが提供できるよう規模の経済を追求し、効率化のために広域連携や市町村合併を推し進めていくことです。

このような観点から、2月議会の総務常任委員会では、広域連携や市町村合併を促す市町村振興補助金の拡充を中心に質疑・提案を行いました。

地域貢献度ナンバーワン

開通 鍋谷峠道路・父鬼バイパス

大阪と和歌山をつなぐ国道480号線・鍋谷峠道路と父鬼バイパスが4月1日に開通。振り返れば、和歌山側の道路整備や国直轄事業の鍋谷トンネル(府県間トンネル)が順調に進む中、大阪側の道路整備(父鬼バイパス)が行財政改革の煽りで一時停滞していた時期もありましたが、地元の皆様の多大なるご協力と、行政はじめ関係者の皆様のご尽力のおかげで開通の運びとなりました。初当選以来、議会で取り上げるなど事業推進に努めてきたひとりとして大変うれしく思います。道路の開通で、関空から和泉市を経て世界遺産高野山へ、また京奈和自動車道を経て奈良や京都へと繋がります。和泉市・大阪・関西が世界へつながり、大きな効果をもたらすことを期待いたします。



開通に合わせて、地元要望の「あみだ寺」案内標識を設置▶

推進中 住みやすい和泉市の実現 子供たちの安全確保

府議団幹事長に就任したことで党務や議会活動が多くなり、地元の皆様と対話させていただく時間が少なくなりましたが、寄せられたご要望は真摯に取り組んでおります。これからも生活者の視点に立ち、大衆とともに歩む政治家であることを心掛け、公共の利益・住民福祉向上のためしっかりと取り組んでまいります。



▲道路排水溝整備とグリーンヘルム施工(和泉市内) ▲歩行者空間整備事業が進む父鬼和気線(内田町内)

幕引きは許されない 「森友学園」府審議会の不可解な謎?

森友学園問題は、そもそも大阪府私学審議会が「認可適当」としたことがすべての始まり。「認可適当」という仮免許を与えたことにより、小学校開校に向けた準備が始まりました。審議会では申請内容を疑問視する声が多くあったのに、なぜ1か月後に異例の臨時会まで開いて「認可適当」としたのか。また、審査基準では「土地は自己所有」となっているのに、

なぜ借地を予定していた学園が「認可適当」となったのか。「認可適当」に至った経緯について不可解な謎が多くあります。2月議会最終日、自民党府議団は虚偽証言への罰則規定がある百条委員会の設置を求めましたが、大阪維新の会と公明党の反対により否決され、2月議会は閉会となりました。